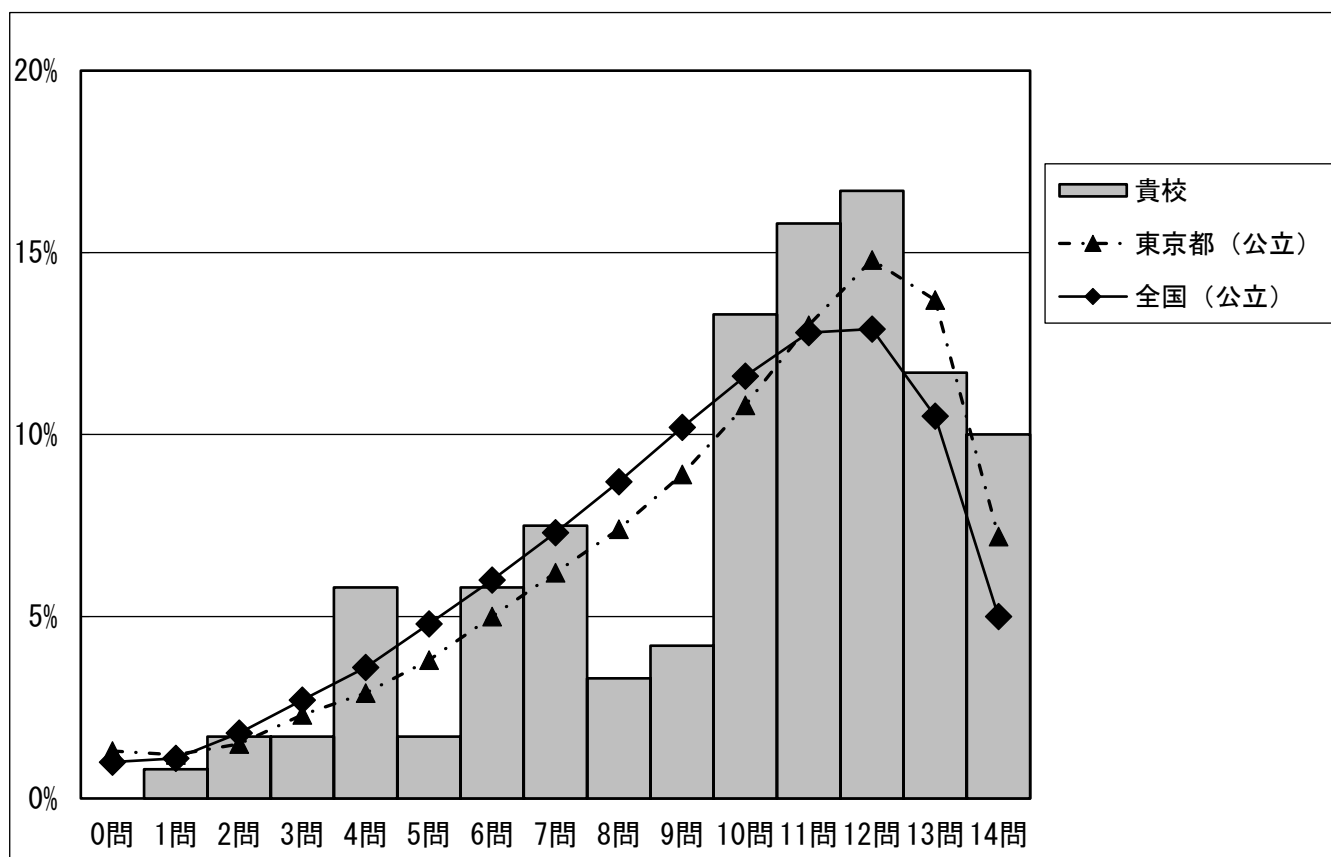


国語	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
江戸川区立篠崎第四小学校	120	9.9 / 14	71	11.0	3.2
東京都（公立）	92,237	9.6 / 14	69	10.0	3.3
全国（公立）	965,308	9.2 / 14	65.6	10.0	3.3

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



○国語の平均正答率は、全国、東京都共に上回っている。

○特に筆者や作者の意図を考えることができている。

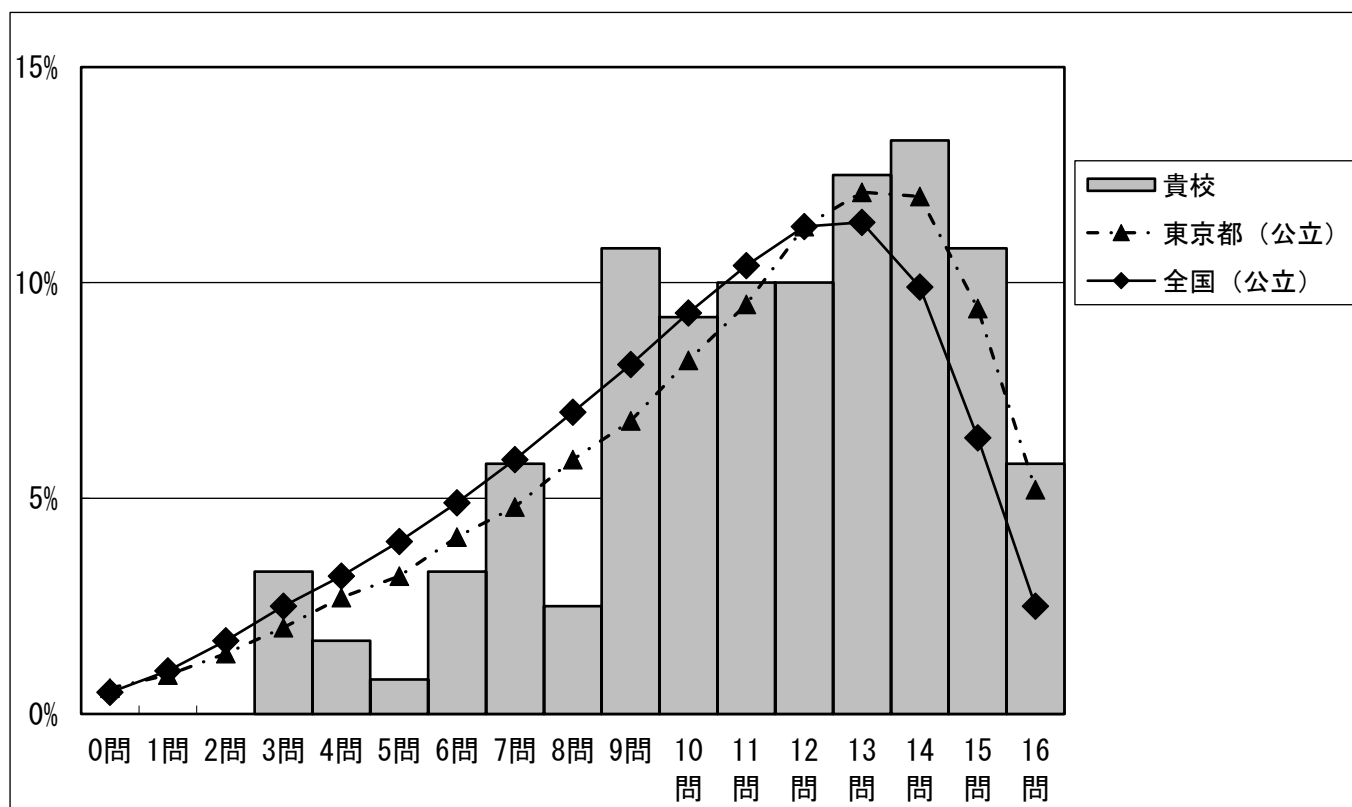
○昨年度まで校内研究を国語とし、音読を通して文章の構成、場面の移り変わりを読み取ることができたことが要因であると考え。（研究の成果が表れた結果となった。）

○一方で正答数5問以下の児童が複数いる。これらの児童は、言語に触れる機会が少なかったと考える。

→今後も読むことを重視し、他教科・読書科とも関連付けながら、物語、新聞、コラム等を読む機会を多く設け、知識や活用力の向上を図る。言語に触れる環境を整えたり、読書を通して本に親しむ楽しさを味わわせたりする。

算数	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
江戸川区立篠崎第四小学校	120	11.3 / 16	70	12.0	3.3
東京都 (公立)	92,266	10.7 / 16	67	12.0	3.7
全国 (公立)	965,431	10.1 / 16	63.2	11.0	3.6

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



○算数の平均正答率も全国、東京都共に上回っている。

○正答率2問以下の児童もいなかった。

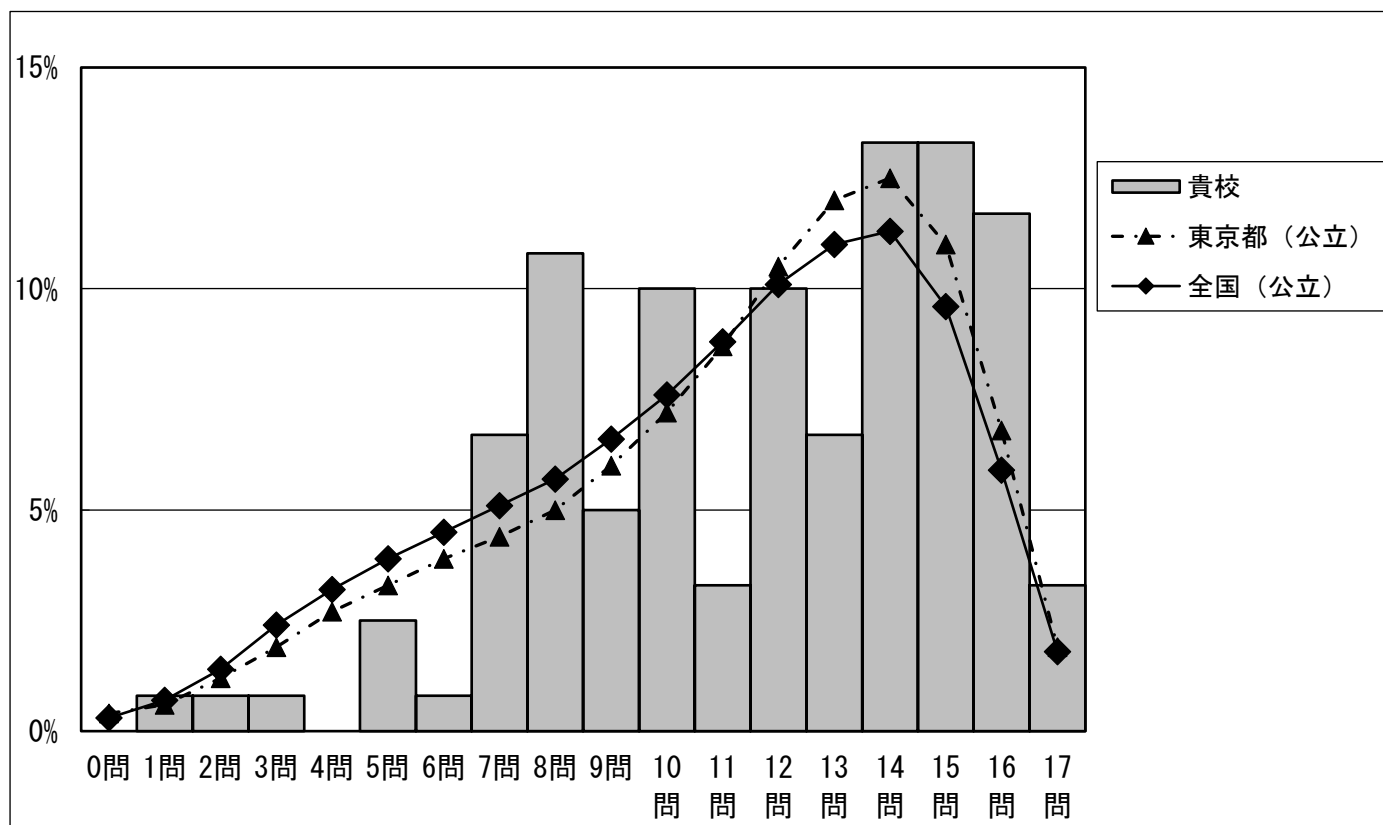
○習熟度別に少人数で授業を行うことにより児童に実態に合わせた対応ができた。

○放課後学習教室やベーシックタイムを毎週金曜日に設定したことにより、基礎基本の定着を図ることにつまずきのある児童への対応が功を奏したと考える。

→放課後補習教室や毎週金曜日のベーシックタイムを今後も継続していく。さらに、下位層の更なる引き上げを行うために引き続き個に応じた手だてを講じていく。

理科	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
江戸川区立篠崎第四小学校	120	11.7 / 17	69	12.0	3.6
東京都（公立）	92,293	11.1 / 17	65	12.0	3.8
全国（公立）	965,761	10.8 / 17	63.3	11.0	3.8

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



○理科の平均正答率も全国、東京都共に上回っている。

○環境・実験アシスタントを活用し、授業で観察や実験などの体験学習を重視した結果であると考える。

○授業では問題解決学習を取り入れ、実験方法や結果に対する考察を自分なりに考えさせる時間を確保してきたことも一つの要因であると考える。

○一方で下位層の児童が複数いる。学習意欲の向上のための導入や学習過程の工夫が今後の課題となる。

→今後も環境・実験アシスタント有効活用し、授業で観察や実験などの体験学習を重視していく。また、授業では問題解決学習を取り入れ、実験に対する意欲の向上や自主的な取組を図っていく。